

平成22年度 決算報告書  
(第7期)

国立大学法人鳥取大学  
(単位：百万円)

区 分	予 算 額	決 算 額	差 額 (決算－予算)	備 考
収入				
運営費交付金	11,569	11,569	-	
施設整備費補助金	63	404	341	(注1)
補助金等収入	333	1,025	692	(注2)
国立大学財務・経営センター施設費交付金	52	51	△1	(注3)
自己収入	20,041	21,787	1,746	
授業料、入学料及び検定料収入	3,724	3,736	12	(注4)
附属病院収入	15,973	17,626	1,653	(注5)
雑収入	344	425	81	(注6)
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	1,483	1,674	191	(注7)
長期借入金	542	395	△147	(注8)
目的積立金取崩	486	228	△258	(注9)
計	34,569	37,133	2,565	
支出				
業務費	29,810	29,922	112	
教育研究経費	15,613	14,865	△748	(注10)
診療経費	14,197	15,057	860	(注11)
施設整備費	657	827	170	(注12)
補助金等	333	1,006	673	(注13)
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	1,483	1,537	54	(注14)
長期借入金償還金	2,286	2,275	△11	(注15)
計	34,569	35,567	999	
収入－支出	-	1,566	1,566	

○予算と決算の差異について

- (注1) 施設整備費補助金については、当初見込まれていなかった事業計画が追加されたことにより、予算金額に比して決算金額が341百万円多額となっています。
- (注2) 補助金等収入については、予算額に計上していなかった補助金の受入により予算金額に比して決算金額が692百万円多額となっています。
- (注3) 国立大学財務・経営センター施設費交付金については、事業計画が変更されたことにより、予算金額に比して決算金額が1百万円少額となっています。
- (注4) 授業料、入学料及び検定料収入については、授業料が増加したことから、予算金額に比して決算金額が12百万円多額となっています。
- (注5) 附属病院収入については、患者数の増加、外来化学療法増加等による増収及び診療報酬改定による評価引き上げの影響により予算金額に比して決算金額が1,653百万円多額となっています。
- (注6) 雑収入については、主として科学研究費間接経費収入の増加により予算金額に比して決算金額が81百万円多額となっています。
- (注7) 予算段階では予定していなかった民間等からの寄附金、受託・共同研究の獲得に努めたため、予算金額に比して191百万円決算金額が多額となっています。
- (注8) 長期借入金については、事業計画の変更による借入額の減少により予算金額に比して決算金額が147百万円少額となっています。
- (注9) 目的積立金取崩については、執行計画を見直したことにより予算金額に比して決算金額が258百万円少額となっております。
- (注10) 教育研究経費については、経費の節減、人件費の抑制及び退職手当支給額が見込みを下回ったことにより、予算金額に比して決算金額が748百万円少額となっています。
- (注11) 診療経費については、附属病院収入の増収に伴う経費の増、医療施設設備整備を行ったことにより予算金額に比して決算金額が860百万円多額となっています。

(注12) (注1)に示した理由等により、予算金額に比して決算金額が170百万円多額となっています。

(注13) (注2)に示した理由等により、予算金額に比して決算金額が673百万円多額となっています。

(注14) (注7)に示した理由等により、予算金額に比して決算金額が54百万円多額となっています。

(注15) 長期借入金については、金利変更等償還計画の変更により予算金額に比して決算金額が11百万円少額となっています。

○「産学連携等研究収入及び寄附金収入等」のうち、前年度よりの繰越額からの使用額105百万円。

○決算額と損益計算書上の計上額との差異について

教育研究経費、診療経費の決算額と損益計算書上の計上額との差の主なものは、固定資産取得に関わる支出であります。